

むかいだ
向田遺跡 (本発掘調査B)

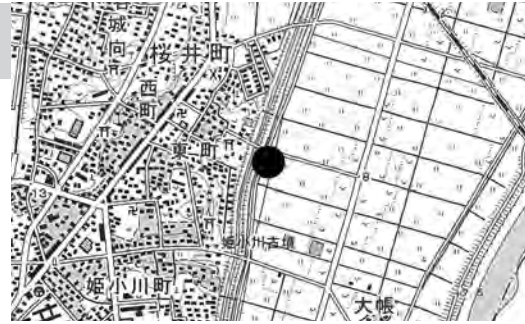
所在地 安城市東町秋葉下
(北緯34度55分03秒 東経137度05分51秒)

調査理由 中小河川改良工事

調査期間 令和4年11月

調査面積 530㎡

担当者 樋上昇・永井邦仁・木村有作・池本正明



調査地点 (1/2.5万「安城」・「西尾」)

調査の経過 調査は、愛知県建設局河川課による中小河川改良工事に伴う事前調査として、愛知県県民文化局から委託を受けて行った。調査面積は530㎡である。当該遺跡ではこれまでに平成29年度に計1,524+㎡の発掘調査を行っている。

立地と環境 遺跡は碧海台地東縁から下った沖積低地に立地し、標高は約8.3mである。西方の碧海台地上には獅子塚古墳 (古墳時代前期) が立地する。

調査の概要 調査対象地は標高約7.3mに近世後半の遺物を包含する耕作土がある。その下位で顕著な遺構は検出されず、調査区南部において古墳時代前期～鎌倉時代の土師器・須恵器・山茶碗を包含する黒褐色粘土層が認められ、長らく沼地であったことが明らかとなった。一方調査区北部では、中粒砂の連続する側方堆積があることから河川堆積で形成された微高地と考えられる。ただし当該層からの出土遺物はないので形成時期は不明である。このように向田遺跡の大半は沼地または河道であり、亀塚遺跡以北と姫下遺跡以南を区分する境界のような場所であったと考えられる。
(永井邦仁)



向田遺跡における河川堆積の断面